

剪りのこしたる山百合のそつぽ向き
棧橋を駈け来て夕立傘もたず
重ねをく柄の乱れたる団扇かな
はゞたける日覆の石ひきづられ
たるみたる縞をひつぱる日覆かな
登山小屋南京錠の逆立てる
滝茶屋の床を歩けば卓動く
欄干におく手にひゞき瀧落つる
瀧風に飛びし葉橋にとゞまらず
鐘撞いてこゝが涼しと立ち去らず
岩清水茶碗の座りにくきかな
ポケットにゆがみし汗の手帳かな
噴水のひつこめば像いぶかしみ
立ち読みの文字のちらつく夜店かな

歯にあたりコップの氷とけてをらず
ビアホール夕日失せたる卓並ぶ
卓を打ち雨とびあがるビアホール
荒砂利に椅子落着かずビアホール
洗面器金魚の紅がはじきあひ
銅像にもたれて昼寝乞食かな
脳天を焼きはじめたる西日かな
炎天やのぞきし店の奥見えぬ
魚屋の線香けぶる西日かな
紐張ればわれもわれもと水着干す

二〇一六年四月二六日